

「緊急地震速報」モデル実験の実施について

気象庁では、関係機関と共同で「緊急地震速報」モデル実験を実施します。

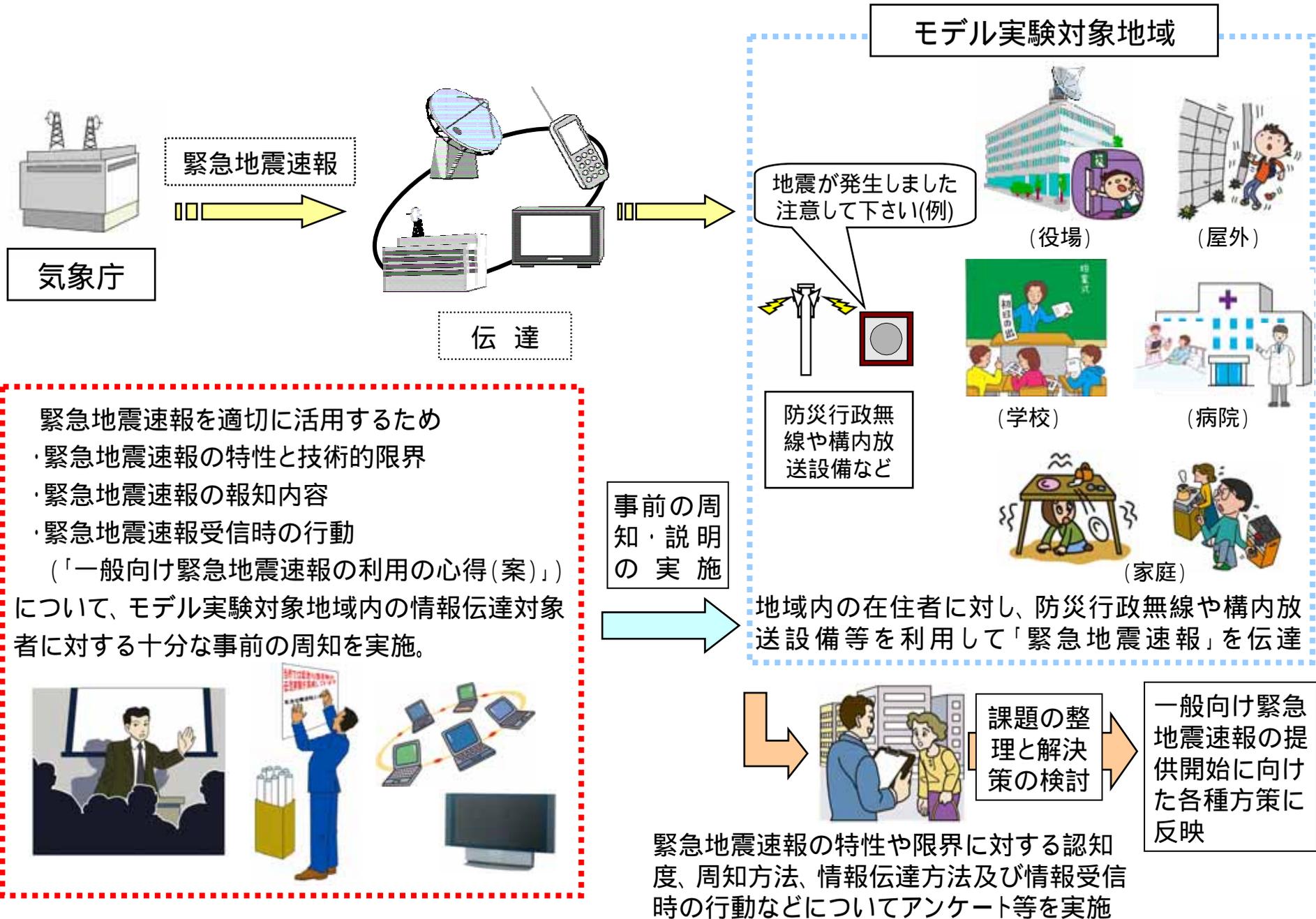
このモデル実験は、緊急地震速報を広く国民へ提供するための準備の一環として実施するもので、モデル実験の対象地域を設定し、その地域内の住民の方々などに緊急地震速報を伝達することにより、緊急地震速報の有効性の検証や課題の抽出を行うものです。対象の地域内で訓練などを含め緊急地震速報が伝達される度に、緊急地震速報の認知度、情報伝達方法、情報受信時の行動等について住民の方々などにアンケート調査を行い、その結果は、緊急地震速報を広く国民に提供するに当たっての効果的な周知方法及び伝達方法、課題の整理、提供開始時期の判断等提供に向けた検討の重要なデータとします。

今般、宮崎県清武町、愛知工業大学（愛知県豊田市）及び国立病院機構災害医療センター（東京都立川市）について、モデル実験実施のための準備が整ったことから、別紙のとおり実験を開始します。今後準備が整い次第、順次他の地域にもモデル実験を拡大していくこととしています。

[本件に関する問い合わせ先]

気象庁地震火山部管理課 （03-3212-8341 内線 4505）

モデル実験のイメージ



緊急地震速報を適切に活用するため

- ・緊急地震速報の特性と技術的限界
- ・緊急地震速報の報知内容
- ・緊急地震速報受信時の行動

(「一般向け緊急地震速報の利用の心得(案)」)

について、モデル実験対象地域内の情報伝達対象者に対する十分な事前の周知を実施。

(1) 宮崎県清武町

項番	項 目	摘 要
1	モデル実験対象地域	・ 宮崎県清武町
2	モデル実験の実施主体	・ 宮崎県清武町 ・ 独立行政法人 防災科学技術研究所 ・ 気象庁
3	緊急地震速報の伝達対象者	・ 宮崎県清武町内の在住者
4	緊急地震速報の放送の基準	・ 宮崎県清武町において推定される最大震度が3以上となった場合に放送を行う
5	緊急地震速報の伝達方法と放送内容	・ 宮崎県清武町内の公共施設（小中学校含む）の館内放送及び自治会所有の既設有線設備を用いて、戸別受信機及び屋外放送設備（拡声器）による伝達を行う。 ・ 放送する内容は、推定される震度の大小に係らず、「（サイレン）+地震が発生しました。注意して下さい。」の旨の放送を行う。
6	モデル実験実施の事前周知方法	・ 宮崎県清武町の広報紙への記事掲載 ・ 新聞の折込みによるビラの配布 ・ 館内放送及び有線放送設備を用いた音声による告知 ・ 各種集会や研修会における説明
7	モデル実験開始日	・ 平成18年11月14日

(2) 愛知工業大学

項番	項 目	摘 要
1	モデル実験対象地域	・ 愛知工業大学八草キャンパス (愛知県豊田市八草町八千草1247)
2	モデル実験の実施主体	・ 愛知工業大学 ・ 気象庁
3	緊急地震速報の伝達対象者	・ 愛知工業大学八草キャンパス内の学校関係者、学生及び外来者
4	緊急地震速報の放送の基準	・ 愛知工業大学八草キャンパスにおいて推定される最大震度が5弱以上となった場合に放送を行う
5	緊急地震速報の伝達方法と放送内容	・ 愛知工業大学八草キャンパスの校内放送設備を用いて、キャンパス内各施設(グラウンドなどの屋外施設を含む)へ伝達を行う。 ・ 放送する内容は、推定される震度の大小に係らず、「(サイレン)+地震です。」の旨の放送を行う。
6	モデル実験実施の事前周知方法	・ 学内関係者へのパンフレットの配布と説明会の実施 ・ 受付におけるビラの配布(外来者向け)
7	モデル実験開始日	・ 平成18年12月中旬

(3) 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター

項番	項 目	摘 要
1	モデル実験対象地域	<ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人 国立病院機構災害医療センター (東京都立川市緑町3256)
2	モデル実験の実施主体	<ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人 国立病院機構災害医療センター 特定非営利活動法人 リアルタイム地震情報利用協議会 気象庁
3	緊急地震速報の伝達対象者	<ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人 国立病院機構災害医療センター内の病院関係者、外来及び入院患者(面会者等を含む)
4	緊急地震速報の放送の基準	<ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人 国立病院機構災害医療センターにおいて推定される最大震度が4以上となった場合に放送を行う
5	緊急地震速報の伝達方法と放送内容	<ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人 国立病院機構災害医療センターの構内放送設備を用いて、各施設(病棟を含む)へ伝達を行う。 放送する内容は、推定される震度の大小に係らないが、大きな揺れが到達するまでの猶予時間に応じて、変化させる。1例として、「(サイレン)+地震がきます+あと 秒(10秒単位)で揺れます。揺れに備えて下さい。」の旨の放送を行う。
6	モデル実験実施の事前周知方法	<ul style="list-style-type: none"> 病院内関係者への説明会の実施 独立行政法人 国立病院機構災害医療センター内へのポスターの掲示 ビラの配布(外来者向け)
7	モデル実験開始日	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年11月下旬